



中国で人気のある算数ゲーム「24点」の紹介

神戸大学 経済経営研究所
教授 潘 俊毅

中国には「24点」という算数ゲームがあります。これはトランプを使って遊ぶゲームです。算数の四則計算で24を得ることがゲームのポイントです。このゲームは暗算能力を高めることで、中国の小中学生にすごく人気があります。日本の小中学生にもふさわしいかと思しますので、ここで紹介します。

「24点」ゲームは二人で遊ぶことが多いですが、多人数で遊ぶこともできます。以下で、二人で勝負する場合の基本の遊び方を説明します。

1. まずトランプの中の1～10までのカードを取り出して、二人に半々に分けます。(20枚ずつ) カードを持っている時は、自分も相手も見えないように表を下に伏せておきます。
2. 二人で同時に二枚のカードの表を見せてテーブル上に出します。その時、テーブルには合わせて四枚のカードがあり、四つの数字を確認できるはずですが(同じ数字が出る場合があります)。
3. これらの四つの数字と、「+、-、×、÷」をそれぞれ一回だけ使って、24となるように計算します。例：四つの数字が「3・5・6・7」の場合、 $(5+7) \times (6 \div 3) = 24$ または $3 \times (6+7-5) = 24$
4. 勝負は早い者勝ちで決まります。先に答えが分かった方はテーブルを軽く叩きます。叩いたらすぐ答えを言います。
5. 答えが合っていたら、負けた方がテーブル上の四枚のカードを受け取ります。間違っ叩いたり計算が間違っていたりした場合、間違った方がカードを受け取ります。
6. 長い時間考えてみても二人とも答えを出せなかった場合、その四枚のカードをそばに置き、次のゲームに進みます。次のゲームで負けた方は前に答えを出せずに置いておいた四枚も受け取ります。
7. 以上の手順を繰り返して、いずれの方の手元にカードがなくなるまでゲームが続きます。
8. 最終的に手元にカードがなくなった方が勝者です。

三人以上でゲームを遊ぶ場合、最初のカードの配分の仕方（上記手順 1）や出し方（上記手順 2）、そして負けた方（二人以上）がそれぞれ何枚のカードを受け取るか（上記手順 5 と 6）については、明確のルールがありませんので、一般的にはゲームを開始する前に参加者同士の間で相談して決めます。

なお、このゲームをもっと複雑にするために、ジャック (J)、クイーン (Q)、キング (K) をそれぞれ 11, 12, 13 としてカードに入れて遊ぶこともできます。さらに、小学校高学年や中学生になると、分数の計算やルート、2 乗、3 乗も導入することができます。例えば、四つの数字が「1・5・5・5」の場合、整数での四則計算では答えを出せませんが、分数を使って $(5 - \frac{1}{5}) \times 5 = 24$ で求められます。また、四つの数字が「5・9・9・10」の場合、ルートを使って $(10 - 5) \times \sqrt{9} + 9 = 24$ で求められますし、四つの数字が「1・2・2・3」の場合、3 乗を使って $(1+2) \times 2^3 = 24$ で求められます。

最後に、このゲームは子供だけではなく、大人でも時々遊ぶことをお勧めします。特に高齢者の場合、脳を活性化することにより認知症の予防策になるのではないかと思います（笑）。